アイガモロボの活用等，グリーンな栽培実証の新たな取り組み

国内農業の現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化，地域コミュニティの衰退
- 温暖化，大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱，内食拡大
- SDGsや環境への対応強化

農林水産業や地域の将来も見据えた
持続可能な食料システムの構築が急務

農林水産省が令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定

2050年までに目指す姿

- 農林水産業の**CO_2ゼロエミッション化**の実現
- 低リスク農薬への転換，総合的な病害虫体系の確立・普及に加え，ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により**化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減**
- **輸入原料や化石燃料を原料**とした**化学肥料の使用量を30%低減**
- 耕地面積に占める**有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大**
- 2030年までに**食品製造業の労働生産性を最低3割向上**
- 2030年までに食品企業における**持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す**

大崎市では，平地と中山間地に適した「グリーンな栽培体系への転換サポート」実施計画を策定 ⇒ 栽培マニュアルを作成

大崎市有機農業・グリーン化推進協議会を設立

【概要】
みどりの食料システム戦略と協調し，グリーンな栽培体系への転換に資する検証事業に取り組むことで，世界農業遺産「大崎耕土」で有機農業や環境保全型農業の普及を図る。
協議会は，農業者，実需者，農機メーカー，ＪＡ等の農業団体，県や市の行政等の関係者で組織する。

【目的】
国の事業『グリーンな栽培体系への転換サポート』の活用により地域に適したグリーンな栽培体系を検証するため，栽培実践及び検証を行う。

【内容】・**アイガモロボ**活用による水田の雑草抑制
・**スマホ水管理システム**による水田水位の遠隔管理
・**リモコン草刈機**による畦畔等の除草，シェアリング

【期間】 令和4年5月～令和4年12月

【スマート農機の現地講習会】

○日時：令和4年5月25日(水)9:30～11:00
○場所：鳴子温泉地域南原地区ほ場(集合:南原集会所)
○内容：先進的なスマート農機の技術活用の講習
(アイガモロボ・スマホ水管理システム・リモコン草刈機)

【構成員】

農業者	先進技術での栽培
農機メーカー	機器の実証と指導
ＪＡ	農業者との調整，技術指導
県（普及センター）	実証圃でのデータ管理・分析，検証によるマニュアル作成
市	統括，協議会の運営，事業実施手続き